文化のにおいがする介護を

老健たいよう作業療法士
桂さん資格取得

釧路市内の介護老人保健施設「老健たいよう」に勤める作業療法士、桂裕二さん(39)がこのほど、要介護高齢者の生活の質を高める専門家「アクティビティディレクター」(AD)を取得し、日々の業務に「文化のにおいがする介護」を吹き込もうと奮闘している。桂さんは「もっと釧路地域にADの認知度が広まって、文化のにおいがする暮らしのケアが現場で広がれば」と話している。

認定証を手に桂さん。文化のにおいのする暮らしの環境づくりに意欲を示す

AD 道内で3人

ADは、資格認定機関の高齢者アクティビティ開発センター(東京都中野区、代表・多田千尋東京おもちゃ美術館館長)が設ける中級講座の修了者に資格として認定されるもので、桂さんによると全国で認定者は450人(2011年5月15日現在)、道内では桂さんを含む3人(同)のみだという。

受講のきっかけは昨年、釧路専門学校で受講した初級講座「アクティビティインストラクター」(AI)で、多田さんが提案する要介護高齢者の心を豊かにする「アクティビティケア」に感銘を受けた。現場での実践方法をより具体的に学ぶため、今回AD受講を志した。

ADはAIと異なり、東京での3日間の集中スクーリングの前に通信講座で課題やレポートを作成し、それに合格しなければ受講資格そのものが得られない。費用もAIが6000円なのに対し、ADは7万8000円と格段に高い。

スクーリングでは毎日10時間ほど、専門講師による実習やグループワーク、座学を受けた。桂さんは「最初に衝撃を受けたのはレクリエーションの概念。創造性豊かな暮らしで生きる喜びを感じる活動ということに驚いた。認知症で回復の見込みがない人でも、昔の暮らしを思わせる環境を与えられると自ら動こうとしてその結果、訓練になるという逆転の発想も刺激になった」と振り返る。

桂さんの業務は、訓練で要介護の人の自立を支援し、できないことがどれくらいできるようになったかなど数値で示される改善が求められるが、「利用者の笑顔や会話が増えるなど数値化されない効果が実は大切。その積み重ねが自立につながると信じて、効率化優先の生活から文化のある暮らしへ、良かれと思うことをどんどん試して職場の仲間と共有していきたい」と意欲を示している。

素敵 わが街 イキイキタウン